九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

新潟大学教育学部「音楽実践Ⅳ（日本の伝統的な歌唱）」（2 年生）授業実践報告

武藤, 宏司
新潟大学教育学部 : 非常勤講師

https://hdl.handle.net/2324/4842488

出版情報：オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.103-103, 2021-04-30. 雷音学術出版
バージョン：
権利関係：Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International

新潟大学教育学部「音楽実践Ⅳ（日本の伝統的な歌唱）」（2 年生）授業実践報告

武藤宏司

1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は、音楽科教員を目指す学生が、音楽科指導要領の指導内容のうち、我が国の伝統的な歌唱についてその特徴を把握しつつ、基本的な技能を習得すること、またこれを学校の音楽授業につなげる具体的な活動として経験し、その方法論を学ぶことを目的としている。

対面レッスンの形式で、山田流箏曲における歌唱を中心に、その音楽的な特徴や発声、発音、節回し、間、身体の用い方を習得するとともに、将来の授業実践を想定し教材化へと繋げるという内容で、当初は日本の伝統的な声の表現と歌唱の特色についての導入、基礎的な歌唱曲のレッスンとその試験、応用として古典の歌唱曲のレッスンとその試験、発展として語りやセリフ調の歌唱のレッスン、そして教材化のグループ活動とその発表という計画であった。また成績評価については、毎時間の実技練習の様子と技能習得度、2 回の実技試験における演奏、教材化の活動の様子と発表の成果で行う予定であった。

なお「音楽実践Ⅳ」は、「音楽実践Ⅲ（箏実技）」とともに 2 年次に履修するもので、本来は前期が音楽実践Ⅲ、後期が音楽実践Ⅳ（両授業とも筆者担当）であるが、大学の方針で令和 2 年度前期が全面オンライン授業となったため、大学所有の楽器を使用し学生のほとんどが演奏経験のない箏実技の授業を行うのは困難となり、本授業を前期に行った。よって学生は箏についての知識や経験がない状態のため、当初の授業計画は見直しを行った。

授業は ZOOM を利用し双方向型で行った。第 1 回の授業では箏の基礎知識について、伝統的歌唱の導入は第 2 回で行った。第 3～5 回は発音に焦点を当てた。ただ、ZOOMではタイムラグがあり同時に唄うことができず、また音質の問題もあること、学生のネット環境による不公平がないように、当該授業の復習と次回の予習の動画を撮影して YouTube 上に限定公開し、学生が自習できるようにした。第 6 回以降は歌唱の基礎、応用、発展と進めたが、先述の通り学生は箏実技が未履修で箏の楽譜を読めないため、レッスンの課題曲は箏譜の他に五線譜化したものも配布し、それを使用した。またここでも課題曲について箏伴奏での範唱動画と、伴奏のみのいわゆるカラオケ動画を作成し共有した。授業においても、そのカラオケ動画を利用し、これを流しながら歌唱させてレッスンを行ったほか、カラオケでの歌唱動画を撮影、提出させて指導する方法も取った。

実技試験も動画提出の方法で行い評価したが、授業計画の見直しを行ったため評価方法も変更した。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

今回の授業を履修した 12 名は出席率が高かった。学生とのメールのやり取りの中では、範唱動画を繰り返し見て勉強できて良かった、自身の歌唱を撮影すると改善点を具体的に見出せた、他者のレッスンの見学が参考になった等の前向きな反応が多かった。

ZOOM では学生の視線は自然と画面に向く。するとその画面に映る教師は常に自分を見ているという緊張感で、より真剣に授業に臨めていたように思う。また本授業においては、普段と違う発声の伝統的な歌唱法で唄うことの恥ずかしさがオンラインで軽減されたためか、例年よりも積極に歌唱に取り組み、習熟度もとても高かった。この分野の授業がオンラインや動画のやり取りでもある程度効果的に行えるということが分かったことは大きな収穫であった。

今後は、こちらが ZOOM で提供する音質を向上させるためのスキルを習得すること、より分かり易い教材を作ること、また音楽に対する情熱や熱量を伝える工夫を重ねていきたい。